

仙台湾沿岸地区民有林直轄治山事業の概要（R2完了）

東北森林管理局

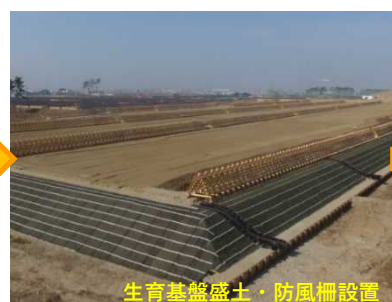
平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴う大規模な津波により、太平洋沿岸部では広い範囲で甚大な被害が発生しました。宮城県の仙台湾沿岸では、飛砂や潮風害の防備などのために整備されてきた海岸防災林が、津波に対して一定の減災効果を発揮しながらも、最後は津波の波力に耐えきれずほとんどが流失する被害を受け、内陸部の保全対象も甚大な被害に見舞われました。

海岸防災林の復旧に当たっては、津波防災の一翼を担うという観点から、これまでの飛砂や潮風害の防備などの災害防止機能に加え、津波エネルギーの軽減効果が十分に発揮できる森林を再生させるため、被災した海岸防災林全域において生育基盤を造成するための盛土を行った上で植栽を行うこととなりました。東北森林管理局では、被災した国有林の復旧事業に着手するとともに、宮城県からの強い要請を受け、隣接する民有林の復旧についても民有林直轄治山事業として実施してきました。

本事業では、計画した区域のうち、残存林帯や管理道、生物多様性保全対策として盛土を行わなかった箇所を除いた全ての箇所で生育基盤盛土を実施し、盛土が完了した地区から順次植栽及び防風施設の整備を実施し、令和2年度末をもって全ての事業が完了しました。



復旧状況



東日本大震災では、多くの樹木で根返りが発生し、その一部は内陸部まで流失しました。仙台湾沿岸地区では、大きな津波に対しても根返りを起こしにくい林帯を造成するため、根系が十分に発達できる適切な生育基盤を確保することとし、地下水位から2.4mの高さまで盛土を行いました。

植栽に当たっては、植栽木の保護のために防風柵や防風垣を設置した上で、クロマツ主体の植栽を行いました。

令和2年度末時点では防風柵を越える高さまで成長したのもあり、今後は植栽したクロマツが健全に成林するよう適切な保育管理を行っていくことになります。



復旧状況遠景



事業の実績

地区名	仙台湾沿岸地区	事業種	治山
施工区域	宮城県 仙台市・名取市・岩沼市・亶理町・山元町		
区域面積	656.6ha		
施工期間	平成23年度～令和2年度		
総工事費	38,290,436千円 (7,512,193千円(直轄治山)・30,778,243千円(施設災))		
整備数量	盛土工 438ha、植栽工 355ha(協定団体植栽を含む)、防風柵工 237,016m、防風垣工 268,040mほか		
実施主体	仙台森林管理署 仙台海岸治山事業所		

事業引継ぎ式を開催

令和3年2月5日、宮城県庁において事業完了に伴う引継ぎ式を開催しました。宮城県及び局、署担当者が出席し、10年に及ぶ本事業を振り返るとともに、東北森林管理局次長から宮城県水産林政部長へ事業の引継ぎを行いました。

